

令和6年度 校内研究実施計画書

Ⅰ 研究主題及び教科

研究主題	「学び合い」から互いを認め合い、生きる力をもつ生徒の育成 ～探究のプロセスを活用して～
教科・領域	全領域

2 主題設定の理由

学習指導要領では、(1)「何を学ぶか」、(2)「どのように学ぶか」、(3)「何ができるようになるか」が改訂のポイントとして示されている。その内、「何ができるようになるか」では、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」が重要であるとされる。今後の社会における予測不能な問題を解決するためには、「自分の考え」を持つとともに、他者と考えを伝え合い協同する中で人間性を育み、「自分は何を学び、何ができるようになったのか」を思考して振り返ることで自己認知を高め、社会を生き抜いていく力を形成していく必要がある。

本校の生徒は落ち着いて学校生活を送っており、問題行動を起こす生徒は少ない。授業規律は ある程度守られている。しかし、アンケート項目「授業中、進んで発言したり、考えを発表したりしている」に対して肯定的な意見が57.6%と他項目と比較して低い結果が出ている。一方で、「授業では、自分の考えや疑問を発言しやすい雰囲気がつくられている」に対しては 77.7%の肯定的な意見がある。このことから、授業で自分の考えを発言しやすい雰囲気はあるが、それを発信する機会がなかったり、学びに向かう力が育まれていないことが推察される。また、「1 時間の授業の中で、今何をしているのかわからないことがよくある」では、41.6%の生徒があてはまると回答していることから、主に C 層 D 層が授業の中で困り感を抱えていることも推察される。

そこで、本校では昨年より続けている「学び合い」を通して、自分の意見を表現するとともに他者の考えを聴き、互いに認め合い協同することで困り感を抱えている生徒も学びに向かう姿勢を身につけられるよう取り組んでいく。また、充実した ICT 環境を生かして、自分の考えを発信しやすい場を設けるとともに、授業力 UP5にも位置づけられている「探究のプロセス」【課題の設定(めあて)→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り】を活用することで生徒が主体となって学びに向かい、この時間を通して何を学んだかを振り返り自分の言葉で概念化していく取り組みをしていく。

以上のことから、

「学び合い」から互いを認め合い、生きる力をもつ生徒の育成～探究のプロセスを活用して～を
目指し、授業改善、学力向上に取り組む。

3 研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

- | |
|---|
| <p>(1)授業改善・授業研究</p> <ul style="list-style-type: none">① 全教員が公開授業の企画。(授業公開週間,公開授業)② 授業または単元後の振り返り活動の提案。
(アンケート「振り返る活動をよく行っている」現:84.6%→90%)③ 教科部会の効果的な運営を企画、課題の提示。 <p>(2)基礎学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none">① 授業や補充学習時に「ミライシード」を活用して個に応じた基礎学力の定着を図る。② 情報技術を活用した家庭学習や基礎学力の向上の方法を検討する。③ 学 VIVA 等の効果的な活用を検討する。 <p>(3)研修の取り組みについての分析</p> <ul style="list-style-type: none">① 授業改善を目的とした生徒意識調査教員意識調査を実施する。② 指導と評価の一体化のための適切な評価方法についてデータを収集し、共有する。③ 全国学力・学習状況調査,みえスタディチェックを分析する。④ 各種通信で結果等を保護者と共有し、学校の取組を発信していく。 <p>(4)校内研修の企画・運営</p> <ul style="list-style-type: none">① 各部会における研修会の企画② 事後検討における講師の派遣依頼、運営。 |
|---|

4 年間研修計画

一 学 期	○今年度の校内研修について ○特別支援教育についての研修 ○第1回授業公開週間・公開授業(3年部) ○全国学力・学習状況調査,みえスタディチェックの分析
二 学 期	○不登校対策についての研修 ○生徒指導対応についての研修 ○授業公開週間・公開授業(2年部) ○生活実践の発表に向けての取組 ○部落問題に対する認識を深める教職員研修の実施
三 学 期	○授業公開週間・公開授業(1年部) ○コンプライアンス研修 ○次年度に向けて成果と課題